Hi Quality Farm
TOMARU

コメ政策と飼料用米に関する座談会
（飼料用米の養鶏用飼料化）

2021年12月3日
（株）トマル

Hi Vision, Hi Sense, Hi Quality,

会社概要

・事業内容
種卵生産及び雛孵化、育雛・育成、鶏卵生産・販売液卵
・凍卵製造販売、堆肥製造・販売、和牛繁殖・搾乳

・創業　大正14年　設立　昭和37年
・代表者　代表取締役社長　都丸雄一
・事業所　群馬県、福島県、栃木県、埼玉県　計30ヶ所
・年商　　１５１億円（2020年度グループ連結合算）
・従業員数　約３６０名(グループ全体　パート含)

Hi Vision, Hi Sense, Hi Quality,

トマルの一貫生産体制

種鶏・孵化部門 → 育雛・育成部門 → 成鶏部門 → 有機農法部門

→ 鶏卵部門

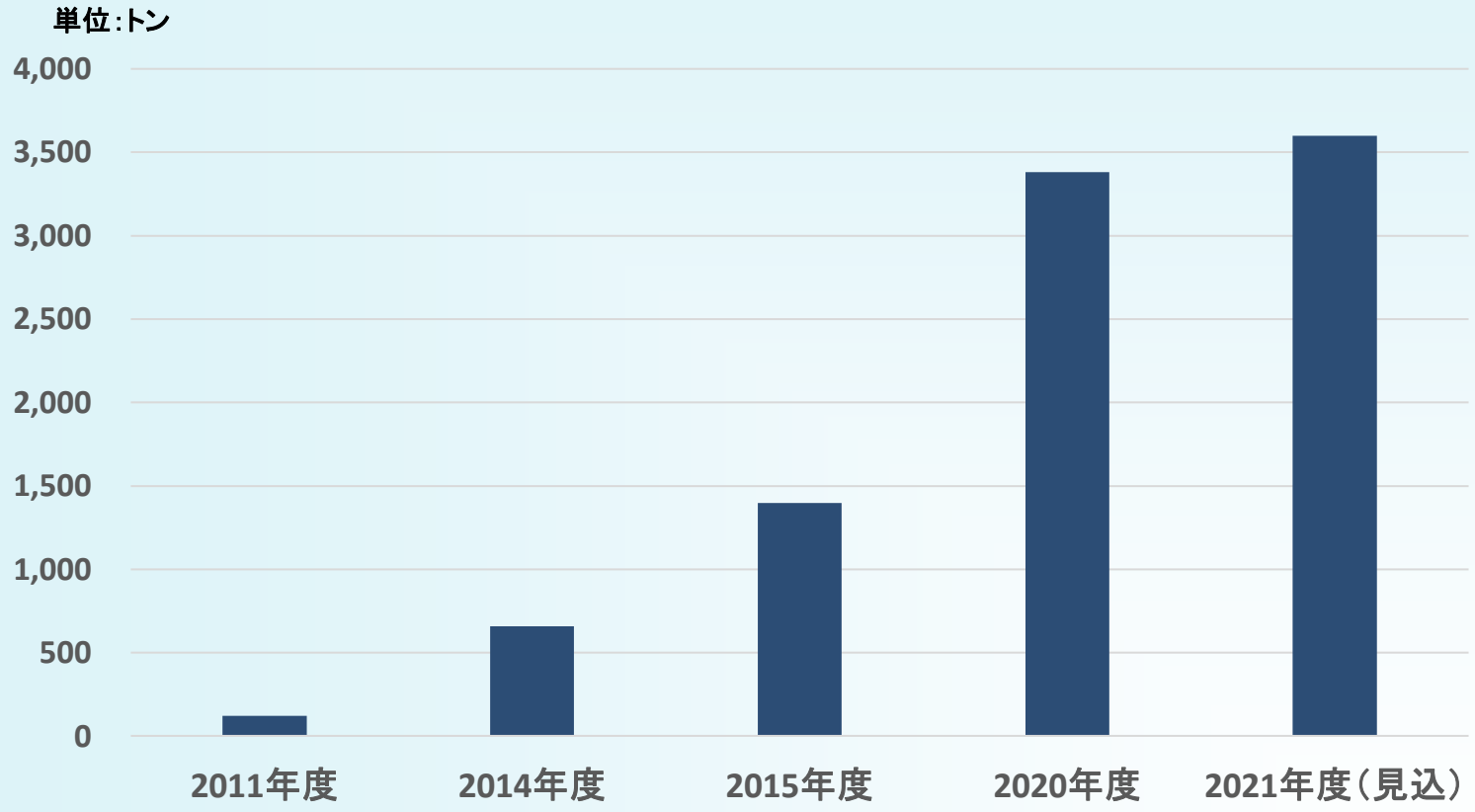
Hi Vision, Hi Sense, Hi Quality,

飼料用米の利用開始の背景

・配合飼料価格に影響を与える主原料のトウモロ コシは海外からの輸入に依存しており、投機筋 による価格高騰リスクあり（⇒飼料用米で代替 することにより、リスク低減・飼料自給率の向上）

- 「食料・農業・農村基本計画
  （平成27年３月31日 閣議決定）」を受け、
  飼料用米の生産者に対し、
  交付金（基準@80,000円/10a）が拠出されることになったこと。

飼料用米の購入数量推移



Hi Vision, Hi Sense, Hi Quality,

飼料用米の利用推移①

2011年：

・飼料用玄米を地元JAから購入（約120トン）
　当初は配合飼料メーカーへ飼料用米を持込、配合飼料として購入

2014年：

・社員が飼料用米（もみ米、玄米）検査員資格取得
　（現在は、同検査員資格保有者２名）
・２つのＪＡから購入（合計で約６５０トン）に拡大
・もみ米の飼料利用に関し、群馬県畜産試験場に「試験場の給餌試験結果」を聴取し、飼料化に際し、問題ないことを確認

飼料用米の利用推移②

2016年：

・国の『食料・農業・農村基本計画』による米価安定のための飼料用米推進を受け、群馬県前橋市でクラスター協議会を設立。循環型農業に向けての飼料用米取引推進

・栃木県茂木町のグループ農場近隣の耕種農家とのもみ米取引開始（茂木町と連携して、飼料用米協議会）

2017年：

・クラスター事業を利用し、飼料用米混合工場完成

（工場建物、飼料用米混合ミキサー、５０ｔ原料タンク、５０t製品タンク等を整備）

国のクラスター事業を使っての飼料用米混合工場建設！

平成27年度「畜産収益力強化対策　（畜産競争力強化整備事業）　」を活用し、クラスター事業にて、　前橋市荒子町に「飼料用米混合工場」を建設

Hi Vision,　Hi Sense,　Hi Quality,

飼料用米の利用推移③

＜荒子工場の自家配設備を拡張＞

2018年：
飼料用米混合工場の設備
（原料切込搬送設備、200t原料タンク、50t製品タンク、粉砕機等）増設
⇒年間25,000トンを配合飼料化して出荷可能に

Hi Vision, Hi Sense, Hi Quality,

飼料用米の利用推移④
＜荒子工場に飼料用米貯蔵倉庫建設＞

2020年：
飼料用米倉庫完成（FB荷姿で1,000トン弱保管可）
有機堆肥販売に絡めて、飼料用米集荷拡大
（もみ米＋玄米）集荷予定
2020年：3,000トン　⇒　2021年：3,600トン予定

自社工場での飼料用米を使った養鶏用飼料製造

育成用飼料：　中雛用1銘柄
　　大雛用2銘柄
成鶏用飼料：　プレレイヤー飼料1銘柄
　　成鶏（白色鶏）用飼料6銘柄
　　成鶏（褐色鶏）用飼料6銘柄

飼料用米配合は、もみ米と玄米で配合に差異はあるが、MAX３０％まで配合（トウモロコシの代替として利用）

Hi Vision, Hi Sense, Hi Quality,

飼料用米の集荷・入庫に際しての感想

◎集荷の荷姿が統一されておらず、
バラ・ＴＢ・紙袋の荷姿で、かつ入り数量が異なるものあり
⇒倉庫保管の際に苦慮

◎もみ米の場合、生産者によって稲の茎等の異物混入しているケースあり
⇒工場や農場での搬送の際に詰まり等不具合

飼料用米を自家配合した感想

◎栄養成分的に、飼料の主原料（トウモロコシ）
　の代替としての利用は十分可能
　栄養成分的にタンパク質の成分値がトウモロコシと
　同等以上（自社調査）

◎トウモロコシよりも安価であれば使えるが、配合量を
　多くするには、物性的に丸粒と粉砕の併用が必要

◎飼料用米を多配合の場合、卵黄色補正はコストアップ

飼料用米利用の課題①

１．安定供給が可能か？
現状の飼料用米に対する国策がいつまで
継続するのか？（飼料用米生産者の保護）

２．価格の安定
利用者（畜産生産者）にとって使用できる価格で
入手できるか？　（トウモロコシ価格との競合の
ため、割高ならば飼料用米の使用は制限される）
⇒価格安定のための仕組みが必要か？

飼料用米利用の課題②

３．飼料米を使った飼料化に際し、通年使用できる仕組みの構築？
現時点では、飼料用米の品質維持の観点から通年利用に耐えうる保管施設がないため、時期的な使用に留まっている。
輸入トウモロコシのように通年、必要数量を使用できる保管・流通体制が望まれる。

４．小規模な飼料用米生産者が利用できる共同利用設備（もみ摺り・乾燥・保管）の整備？

Hi Quality Farm
TOMARU

ご清聴、ありがとうございました

Hi Vision, Hi Sense, Hi Quality,